

RSNA2015 に参加して

JCHO 北海道病院 山口隆義

皆様、こんにちは。JCHO（ジェイコー）北海道病院の山口です。今回は、RSNA2015 に参加して来ましたので報告します。

私自身、RSNA への参加は 5 年ぶりでした。しかも、登録した 3 演題すべてが Scientific に Accept され、さらに 1 演題が paper（口述発表）となったため、出発の数週間前から落ち着かない状況でした。しかも、発表スケジュールは初日から 3 日間連続という事もあり、シカゴに着いてからも緊張感からか、喉が渇いてしょうがなく（飲み過ぎではありませんよ）、時差ボケも良くわからない状況で過ごしておりました。

さて、今年的一般演題数ですが、Education exhibits で 1775 演題、Scientific poster で 973 演題、Science paper で 189 演題だったようです。全ては把握出来ておりませんが、日本の診療放射線技師(RT)による口述発表も幾つかあり、向上心の高さが伺えました。一方 Education が対象となる Award では、北海道からは札幌医大の小倉さんが certificate of merit を受賞されていました。さらに、日本の RT から Magna Cum Laude も出ました！地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館の三井さんのご発表です。これは TBT 法を利用した脳動静脈分離撮影法に関する内容で、画論 2014 でも最優秀賞を受賞されています。私が数年前に九州で TBT 法に関する講演を行った時に初めて TBT 法を知ったとの事で、それから数年で Magna ですよ。しかも年齢は 20 代！末恐ろしいですね。私の発表も TBT 法が 1 演題含まれており、TBT 法が米国でも受け入れられる可能性を感じた次第です。

さて、機器展示も色々と見て参りました。昨年が 100 回記念という事もあり、今年はやや控えめだったようですが、CT 関連でも幾つか気になる他社製品もありました。一方、東芝さんのブースですが、IVR-CT が一番目立つ所に鎮座しており、日本発信の複合モダリティとして輝いておりました。CT 単体では「FIRST」が世界デビューと

いう事でした。皆様ご存知かと思いますが、「FIRST」は東芝さんの Full IR です。この写真は、「FIRST」が搭載される ONE のユニットですが、左側が標準ユニットで、右側の小さいのが Full IR のユニットだそうです。従来より小さい事がわかります。現状ではノンヘリカル 320 列ボリュームデータで約 3 分の画像再構成時間とのお話しでした。しかし平行処理が可能なので、実際の体感的にはもう少し短く感じられそうです。



CT の今後ですが、やはり Dual energy 技術が大きな柱になると思われました。Photon counting 検出器の開発も進んでいるようでしたので、もしかすると数年後には登場するのかもしれませんが、また、これに合わせたコントラストエージェントの開発に関するお話もありました。未来の CT はどうなるのか？

以上、RSNA2015 参加報告でした。